

第1回有識者WGの概要と論点整理 (第2回有識者WG資料)

大阪府企画室

将来像に関する各委員の主なご意見と論点整理案（1/2）

個人

主なご意見

- ・2050年を見据えると、技術が多くのことを解決する中で、**人間が生きる方向性や幸せになる指標**から未来社会を解釈していくことが必要。
- ・「正しい」ことはAIができるようになるので、人間が**「楽しい」と思えることをいかに設計できるか**、「楽しい」の再定義が必要。
- ・効率や物質的豊かさから**個人の幸福や生き方を価値観の中心に位置付け、「Well-being」を各々が追求する社会**がやってくる。

論点

○2050年の個人の幸福感、充足感

- 科学技術の進展により、多くの課題が解決されることが予想される中、個人の幸福感、充足感をどのように考えるか。
 - ・「Well-being」として捉えるか。

【参考】WHO憲章で「健康」について、次のように定義

→病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態（Well-being）にあることをいいます。

- ・Society5.0の達成等により、人々の生活はどのように変容しているか。

都市

主なご意見

- ・**オープンにインクルーシブ**で皆が集まり、必ず輝ける都市となる必要がある。
- ・**東西南北で多様な都市像**を持っており、イメージ発信戦略が必要。 ・**東京とは異なる、自由奔放に**大阪のバイタリティを示すべき。
- ・**大阪・関西圏の最大のユニークネスは、歴史性や文化的特性**にあり、それらを上手く展開していく必要がある。
- ・2050年は、「**『2100年の社会をつくる人材』をつくる社会**」であるべき。 ・西日本のハブ都市として、**日本とアジアをつなぐ都市**へ。
- ・2050年には時代遅れになっている概念もあり得る。**新たな概念を立てることで、大阪初で先進的な部分を更に伸ばせるのではないか。**

論点

○大阪の強み、独自性を活かした大阪ならではの将来像

- 大阪ならではの将来像をどのように描くか。
- 大阪の良さをどのように伝え、人・モノ・投資を呼び込めるまちにしていけるか。
 - ・気質：人情、活気、チャレンジ精神、インクルーシブ、心のバリアフリーなど
 - ・産業：ライフサイエンス、ものづくり、観光、スポーツなど
 - ・魅力：食、歴史、文化など
 - ・都市：西日本のハブ、アジアとの中継都市、MICE都市、各エリア（東西南北）の多様性

○新たな概念の捉え方

- ビジョンの中で、新たな概念（エビジェネティクス等）を用いて、将来像を示していくか。
 - ・府民にわかりやすく伝えるという観点から、新たな概念をどのように考えるか。

将来像に関する各委員の主なご意見と論点整理案（2/2）

世界

主なご意見

- ・2050年の大阪を考えるに当たって、**2050年の世界の状況**をまず把握するべき。
- ・少子高齢化等の対策を経験し、**様々な課題解決システムを他地域、他国に先駆けて**大阪がリードしていく。
- ・大阪・関西万博を契機に、**ポストSDGsで大阪ができることを考え、発信・行動**することが必要。
- ・**SDGsを地場産業**に、夢洲を最高水準のスマートシティに。

論点

〇2050年の世界の中で、大阪（日本）の位置づけ

- 今後の世界情勢等を踏まえ、大阪の位置づけ・役割をどう考えるか。
 - ・世界人口は、今後も増加。一方で、アジアを中心に高齢化が進展するとともに、都市部への人口集中が予想。
 - ・大阪は少子高齢化など、世界に先駆けて課題が顕在化していく。
- 大阪・関西万博を経て、SDGsの先の未来を大阪がどのようにリードしていくか。

各視点から導き出される将来像の要素（案）

- 個人：様々な価値観に基づいて、府民の誰もがその人らしく生きることができる大阪。
- 都市：多様な人が集まり交流し、都市として有する個性や強みを発揮し続ける大阪。
- 世界：課題解決先進都市として世界をリードし、国際社会に貢献する大阪。

多様な主体による「共創」

- ・人と機械、リアルとバーチャル、有機と無機等、異なった性質同士のものによる共創
- ・国際的な共創を促進する社会基盤整備 ・デザイン思考・イノベーションを生む共創環境

将来像（いのち輝く未来社会）

将来像を支える3つの視点に関する各委員の主なご意見

将来像

将来像を支える新しい大阪づくりの方向性

健康都市

- ・歩いて健康維持ということは2050年でも変わらないテーマ。そのための都市空間のデザインやモニタリング技術などの実装が必要。
- ・人がいかに輝いて生きるかという意味の健康づくりを行い、**幸福寿命が体験できるライフスタイル**を実現する。
- ・道修町の歴史に見る創業、市場開発のイノベーションから、**最先端の医療技術と、互いの健康を気遣う日常の調和**を考える。
- ・**生きがいや幸せ年齢を若返らせ**、前向きに社会に取り組んでもらえる場を作るべき。
- ・AIによって自動化・個別化されたヘルスケアプランを提示され、**健康づくりは市民が自分でできる時代**。無機質におこなわれていく健康維持・促進を、**若者の遊び心で、「楽しく」「納得できるもの」**にしていくことができる。

持続可能都市

- ・障がい者対策を先進的に進めてきた大阪として、**障がい者の生活拠点や旅行先として「大阪なら」となるように**すべき。
- ・**テクノロジーの進化を活かしたユニバーサルデザイン**を実現していくことが必要。
- ・**コンパクトシティの実現と地域を支える産業の維持と更新**、土地利用転換、空地を前提とした質の高い**空間マネジメント**、**安全・安心の確保**、課題に対処できる**魅力的で強いコミュニティづくり**等が重要となる。
- ・大阪は、「暮らしの匠」たちの、**生きる知恵で形成されてきた都市**。AIの教師ラーニングに、大阪人の知恵を学ばせ、未来につないでいく。
- ・夢洲を**全自動モビリティやオンライン行政**など未来都市のモデルとし、それをベースに大阪府内にも広めていくべき。
- ・**インフラ自体が未来の時代に適応しながら変化できることが重要**。新たな都市デザインを大阪から提言、実践していく必要がある。

国際都市

- ・万博2回、G20を成功させた都市として、**世界トップレベルのMICE都市**をめざすべき。
- ・**多様な主体が共生できる都市**を目指した土地・空間管理のあり方や、就労・教育・居住環境、観光など多面的な対応が必要。
- ・観光インバウンドからビジネスインバウンドへと国際的な関係人口が広がる。**関係性の広がり**が**イノベーションや次世代の人材育成を推進**。
- ・夢洲に、**国際的な健康医療ツーリズムの拠点**を作るべき。
- ・人的資本への投資に力を入れ、府民を核に、**グローバルなスマートシティ(新たなかたち)**を作り上げていく。
- ・**食とエンターテインメントの世界都市**として先進的に取組みを進めるべき。

【論点】 健康都市、持続可能都市、国際都市、それぞれについて、2050年をどのように描くことができるか。